

◎幹事報告

1. 本日例会終了後臨時総会を開催明年度クラブ役員選挙を行います。
2. 事務局職員松田修司君は希望によりご退職、かわって新松玲子さんに手伝って貰うことになりました。松田君ご苦労さまでした。
3. 臨時総会終了後理事会を開催致します。

◎ニコニコボックス

1. 函館東R.C. 白崎豊治会員より過分の献金を賜りました。有難うございます。
2. 遠藤会員、シニヤアクチブになられた記念として。益々のご活躍を祈ります。

◎卓話 大井安麿会員

日本農業に於ては肥料は徳川中期前までは下肥、推肥、鶏糞、蚕糞、蚕滓、菜種粕等農家の廃棄物が利用されてきたが中期以降綿作りを中心として農作物の商品化が各地で進み農家の現金収入が増えるにつれて干鰯とか鯨粕等の購入肥料も次第に使われる様になったが、ずっと天然の有機物質のみで化学的処理を施した濃厚な所謂化学肥料は明治になってもまだ日本には現われて居なかった。

化学肥料の発祥はヨーロッパで過燐酸石灰の型で現われた。

1774年(安永3年)セント・レーゲルが牧草に動物の骨を用いて実験したところ、牧草が非常に繁茂したという発見から始って居る。1795年ロルド・ワンドナルドが骨の成分は燐酸三石灰である事を発見した。其の翌年、キルワンが小麦の中に多量の燐酸があることを知り、骨の中の燐酸分が肥料して有効な成分であることを知った。1840年ドイツの学者フオン・リービヒは、骨に適当量の硫酸を加えて骨の溶解性を高くすると植物がよく吸収し効力が早く現われることを発表した。

これが、現在の過燐酸石灰と同一成分のものである。

1843年にローズとギルバートの二人がテムス河畔に骨粉から過燐酸石灰を作る工場を作り、世界で初めて化学肥料の工業生産と云うものが誕生した訳である。

日本では前述の如く自然肥料の如き天然の有機物質は早くから使用されて居たが化学技術の発達に伴って居なかった為、之等の肥料が何故に有効であるかということは解明されなかったまま習慣的な使用にとどまっていた。

日本で初めて化学肥料を導入したのは高峯讓吉博士である。博士は明治12年(1879年)工部大学卒業と同時に農商務省に奉職13年にイギリスへ留学した。そこで初めて彼の地に於ける人造肥料工業の発展して居るのを知った。彼は過燐酸石灰の製造技術を修得して帰朝した。

明治17年米国ニューオールリンズでの万博へ政府事務官として行った時、出品されていた燐鉱石を見て之れを利用して過燐酸石灰工業を日本に興すことを考えた。帰国に際して過燐酸石灰と燐鉱石を持ち帰り過燐酸石灰は全国の希望者に分けて試用させた処、大変好評を得た。燐鉱石は硫酸製造会社大阪工場で過燐酸石灰の試作に用いた。

ここで彼は技術的に自信を得て工業化に努力した。結局渋沢栄一氏を説得して漸く明治20年2月渋沢氏と共に東京人造肥料会社を設立し、21年11月東京深川釜谷堀に工場が完成した。これで日本において、初めて過燐酸石灰工場が誕生したわけである。

過燐酸石灰の工業化は出来たが、之れを農家に使用せしむるのに大変な苦勞をした。人造肥料と言うものが農民が肥料と考えている概念とおよそ縁遠いものであった為従来の肥料と切替える事が出来ず、又人造肥料というものの認識の無さから、之れを保健薬と勘違いされて珍妙な問合せが殺到するというエピソードもあった。

明治27.8年の日清戦争により当時有機肥料として多く使われて居た満州大豆の輸入が止まり、又鯨の不漁の為魚肥も品薄しくなり農家が人造肥料に頼らざるを得なくなって漸く使用され始めた結果、其の効力及び経済性が高く評価されて戦後になって此の工業も急激に発展した。

次回例会日 3月11日です。

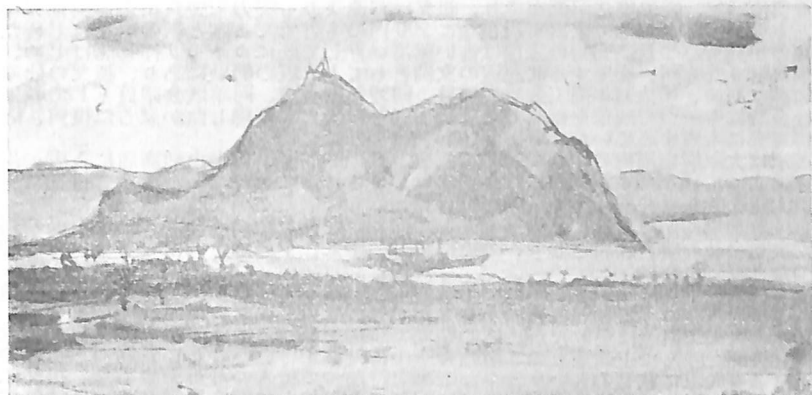
REVIEW AND RENEW (F・コンウエイR.I.会長)
再検討し 刷新しよう



1970. 3. 11

1969~1970 第35号

第290回例会



菅原靖会員

本日のプログラム

会員卓話 "会計こぼなし"

水谷善一 会員

◎出席報告

45. 3. 4 会員数 45名 出席 34名 欠席 11名
45. 2. 25 会員数 45名 出席 33名 メーキャップ 9名 欠席 3名 93.33%
他クラブ状況 函館R.C. 89.43% 函館東R.C. 96.10% 五稜郭R.C. 100.00%

第289回例会記録

- ◎司 会 外山定男会長
- ◎音 唱 それでこそロータリー
- ◎ピジター スピーカー秦良平君(函館R.C.)
函館R.C. 棟方忠君 外3名 函館東R.C. 出村喜作君 外9名
- ◎幹事報告 1. 総会に於いて、次年度理事が決定致しました、ご報告申し上げます。
外山定男君、木屋守迪君、塚田次郎君、布目賢治君、佐々木俊郎君岩塚陽一君
角谷隆一君
- 2. 松前R.C. 1周年記念会出席者は、当クラブからも是非振ってご出席下さい。
- ◎ニコニコボックス
- 1. 誕生祝 船矢会員、成沢会員、森正会員、高杉会員、山形会員、駒井会員
- 2. 結婚祝 布目会員、神原会員、佐々木(俊)会員

◎報告 2月4日、理事会に於いて欠員であつた出席委員長、S.A.A副S.A.Aが下記会員に決りました。出席委員長、関本会員、S.A.A、酒井会員、副S.A.A本間会員

◎話 卓 あきない80年の歩み 秦 良 平

函館は今年開港112年を迎え、60年以上の店歴を持つ五島軒さん等もめるのに、80年の歴史で卓話をするのは面はゆいが責任を果さしていただく。

小社の営業内容は紙文具卸であるが、紙にしても筆硯墨にしても日本古来から需要があり、従つて供給体制もとられていた訳で、仕入先には略略を「ゲンロク」とつけた元禄年間創業の洋紙代理店もあり、本年創業の洋紙卸（福井商事）、或いは、墨の古梅園のように400年以上の歴史を持つ仕入先もあるが、北海道では、私の所が同業中最古の歴史を持つ店になつて居る。

私の曾祖父慶治には娘5人あり、漁網商であつたが、次女の婿に家業を譲つた為、（ちなみに三女冬子は島崎藤村にとつた）長女の婿である祖父貞三郎は東京に出、官途につぐべく警視庁の邏卒（今の巡査）に任命した。

時折も明治23年、帝国憲法が配布され、祖父は官途よりも実力で勝負出来る実業界へ入ろうと志を改め、帰函して末広町現在地に200円のもつてで古本と紙の店をはじめたのが当社の出発であつた。当時の函館は古い開港場として既にカネモリ洋物店はじめ、各種の商が軒をならべ、発展する北海道の玄関として上り坂の勢いにあり、祖父の仕事も幸い順調に進展、明治34年商工会議所議員、同39年副会頭、同年区会議員として職業的にも社会的にも一つの地位を確立した。明治40年の大火に全焼したが直ちに復興、店員にも得意先にも恵まれていた。

二代茂三は大阪府南河内の生れで15才で渡道、繊維卸問屋、角小小杉商店に入店、生来の商才によつて10年で一番番頭になり、店をまかさされるに至つたが、27才で祖父に見込まれ、大正2年長女の養子として当家に入籍、直ちに家業を引受けて努力した。当時から昭和初期にかけては、北洋基地として函館は発展をつづけたが、当店も湯の川にあつた製紙会社の総代理店として、全道は勿論、樺太、千島にも商権を有し、黄金時代であつたと言えよう。

春が来て樺太、千島に船が来て樺太、千島に船が行けるようになると、朝早く四時頃から大八車に提灯をつけて、旧棧橋に荷物を運ぶ風景は勇いものであつたらしい。

大正10年の大火で果焼は免れたが、区画整理で店舗をひっこめる事になり、祖父は東京から偉い技師を呼んで土蔵造りの二階建を空中に持ち上げ、その下に鉄筋の二階をつくつて土蔵造りを上に載せるという変つた工事を行なつて世人の耳目を集めた。祖父は若い頃から山林の経営に興味を持ち、当別80町歩の山林と公園を経営して、島崎藤村や巖谷小波の碑もあり、桜の名所として函館人士に親しまれた。之も父が家業に商心したので出来た事であつたと思う。父も昭和5年から会議所の議員となり、商工聯合会の副会長として経済界の発展と力をつくした。昭和5年の函館市は人口19万7千、全国第9位だつたと記憶しているが、満州事変に始まる戦争への途は、すべての日本人を苦難にまきこみ、函館も札幌に次第に繁栄を奪われ、我々の業界も統制の強化と共に同業の殆ど整備される趨勢となつた。

昭和15年祖父、17年父と初代二代相ついで他界、当時出張中であつた小生が家業をつぐ事になつた。自分としては海外雄飛の志があつたが、後継者と目していた弟が学問は途に進み度いと云うので兄の小生が三代目となつた訳である。爾来約30年、此の途を歩いて居る訳であるが、父祖の築いた地盤のお蔭で良い仕入先と得意先に恵まれ、経済界の変動に差期もあつたが何か本年創業80年を迎え得た事は真に幸いである。

願ひて企業の盛衰はその地域社会と大きなかわりを持つことは、樺太を失なつた小樽や閉山にゆらぐ炭砒都市の例を見ても明かである。勿論、函館から札幌或いは他市の発展が企業の盛衰につながることは否めない。小生も戦後商工会議所議員、青年会議所理事長をつとめ、現在も教育委員、調停委員、社会福祉法人や学校法人の理事等をしているが、一つには父祖の歩んだ地域社会への奉仕であり、一つにはロータリーのスピリットを生かして行くからという考えである。ただ小生が函館R.C.の会長の時R.I.会長であつたホッチス氏は、「奉仕の根源は自己の事業に成功すること」と喝破している。80年続けさせていただいた家業を守り、発展させて行くことが奉仕につながる事を銘記して、今後も努力をづけ度い。

次回例会日 3月18日です。

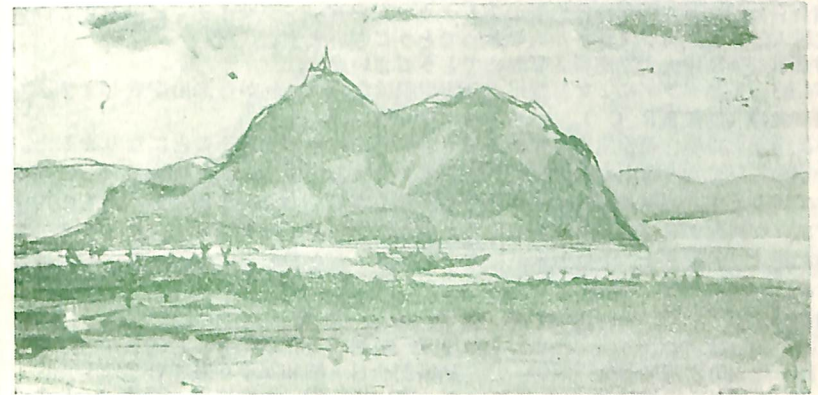
REVIEW AND RENEW (F・コンウエイR.I.会長)
再検討し 刷新しよう



1970. 3. 18

1969~1970 第36号

第291回例会



菅原 靖 会員

本日のプログラム

- 会員卓話 ①国際理解週間について
②脳と卒中のはなし
深瀬鴻一郎 会員

◎出席報告

45. 3. 11 会員数 46名 出席 36名 欠席 10名
45. 3. 4 会員数 45名 出席 34名 欠席 11名 メーキャップ9名 95.56%
他クラブ状況 函館R.C. 85.37% 函館東R.C. 96.10% 五稜郭R.C. 96.43%
2月平均 函館北R.C. 97.04% 函館R.C. 89.86% 函館東R.C. 93.17%
五稜郭R.C. 89.11%

第290回例会記録

- ◎司 会 外山定男 会長 ◎斉 唱 我等の生業
◎ピジター 岸 要蔵 君 (醬油製造、米沢R.C.)
函館R.C. 伊部政次郎君 外7名 函館東R.C. 渡辺綱彦君 外11名
◎幹事報告
①函館東R.C. 渡辺綱彦君は、本日17時の連絡船にて出発致します。沢山のお見送りを